

岩手県高次脳機能障がい者支援普及事業
じゃじゃじゃ交流会 2023 開催要綱

1 趣旨

脳梗塞や脳出血、クモ膜下出血といった脳血管障害や、交通事故などによる脳外傷、脳炎、低酸素脳症などで脳を損傷し、怒りっぽくなった、物覚えが悪くなった、何かにこだわり過ぎるようになったなど、今までに見られなかった症状が現れることがあります。これを「高次脳機能障害」といいます。高次脳機能障がいの多くは外見からは分かりにくく、本人も自覚していないことが多く、支援者からも理解されにくい状況にあります。この交流会は広く多くの方々に高次脳機能障がいに関心を持ってもらうとともに、高次脳機能障がい当事者及び家族の交流を図ることを目的に開催します。

2 主催

いわてリハビリテーションセンター、いわて高次脳機能障害友の会イーハトーヴ

3 日時

令和5年9月9日(土) 13:00~16:00

4 会場

プラザおでつて
岩手県盛岡市中ノ橋通一丁目1番10号 TEL 019-604-3300

5 定員

60名

6 プログラム ※状況に応じて開催形式・内容等変更する可能性があります。

・第1部(13:15-13:45)

講演「高次脳機能障害 戦略的当事者について」講師 ルポライター 鈴木大介氏

・第2部(14:00-14:30)

鈴木大介氏とピアサポーター阿部類氏の対談 ~皆様から事前にいただいた質問の内容を中心に~

・第3部(14:45-15:45)

グループワーク

~高次脳機能障害に関するサポート、制度、仕組みなど「あったら良いのにな・・」ということ

“ハンカチ”に書き、皆様と共有できればと思います~

7 参加費

無料

8 参加対象

- ・高次脳機能障がい者及び家族
- ・医療、福祉、行政関係者等高次脳機能障がいの支援者及び県民

9 参加申込みについて

参加を希望する場合は、8/25(金)までに下記あてにメール又はFAX、電話にてお申し込み下さい。

〒020-0503 岩手郡雫石町七ツ森 16 - 243 いわてリハビリテーションセンター 担当(上田・後藤)

TEL: 019-692-5800 FAX: 019-692-5807 E-mail: koujinou-shien-reha@irc.or.jp

※お申込み受け付けができない場合にのみご連絡致します。

※お申し込み後に参加ができなくなった際には、8月31日までに担当へご連絡ください。

～講師紹介～

鈴木大介(すずきだいすけ)先生 文筆業

1973年千葉県生まれ。子供や女性、若者の貧困問題をテーマにしたルポライター（代表作に『最貧困女子』（幻冬舎）、『ギャングス（漫画原作・映画化）』（講談社）等）だったが、2015年に脳梗塞を発症して高次脳機能障害当事者に。その後は障害当事としての自身取材した闘病記「脳が壊れた」「脳は回復する」（いずれも新潮社）や夫婦での障害受容を描いた「されど愛しきお妻様」（講談社）などを出版し、援助職全般向けの指南書『『脳コワ』さん支援ガイド』（医学書院）で2020日本医学ジャーナリスト協会賞大賞受賞。最新刊は『壊れた脳で生きる・脳損傷のスズキさん、今日も全滅』（合同出版）。



阿部類(あべるい)先生

岩手県盛岡市在住。1985年生まれ。家族構成は両親、姉、弟の5人家族。現在は一人暮らし。2002年8月に脳出血が起こり、その後もやもや病が発覚。国の研究対象となり、手術はせずに経過観察措置。2010年に2度目の脳出血を起こし救急搬送される。その後、高次脳機能障害のリハビリに強い病院に転院。

現在は、盛岡市内の就労支援事業所で支援員として従事しながら、高次脳機能障害のピアサポーターとしても活動している。



参考：

～実録・闘病体験記～ 高次脳機能障害ともやもや病に強い想いで向き合う | Medical DOC

<<https://medicaldoc.jp/m/column-m/202111c0059/>>

【岩手県高次脳機能障害支援普及事業 じゃじゃじゃ交流会 2023】

交流会ご参加の皆様、初めまして、文筆家の鈴木大介です。高次脳機能障害 8 年目です。皆さんは、足を怪我された方が自分のけがに気づかなかったり、杖を使えば歩けることを知らなかったり、せっかく杖を使えば歩けるのに、周囲が杖を使うことを許してくれないがために歩けなかったりするシーンを見たら、どう思いますか？ どうして？ってなりますよね。でも僕たちの障害、高次脳機能障害の周辺では、この理不尽な状況が普通にまかり通ってしまう状況が、いまでも続いています。

今回のお話のテーマは、「高次脳機能障害・戦略的当事者とは何か?」。なんだか難しげなタイトルですが、

- ・足に怪我があることに気づく。
- ・上手に歩けない理由に足のケガがあることを知る。
- ・杖を使えば歩けることを知って、杖を手に入れる。
- ・杖を用意することや、杖を遣えば歩けることを周囲に伝える。

簡単に言えば我々の戦略はこれだけなのですが、それが決して簡単ではないんですよね。なぜなら、我々の障害は見えない障害だからです。

ではどうすればこうした戦略がすんなり実践できるようになるのか、今回はそれを皆さんと一緒に考えるきっかけ作りに挑んでみたいと思います。

鈴木大介

●講師の先生へ質問したいことを事前に募集しております。

メール、FAXで申し込まれる方はこちらの欄にご記入いただき、参加申込書と同時に送付してください。電話で申し込まれる場合は電話口の担当へ内容を伝えてください。

時間の都合上全ての質問を取り上げることは難しい可能性がありますが、募集した質問は講演の中で取り上げさせて頂く予定です。

鈴木大介先生に聞いてみたいこと

阿部類先生に聞いてみたいこと

●高次脳機能障害に関するサポート、制度、仕組みなど「あったら良いのにな・・・」ということをもぜひ教えていただきたいです！
交流会で皆様とも共有できればと思います。